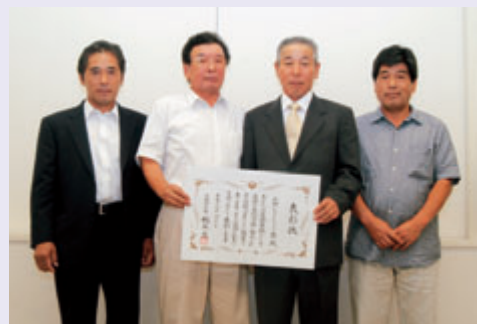


道路里親 市内の2団体が知事表彰

市内で活動している笠間市岩間地区日赤奉仕団(代表:佐藤喜代子さん)と土師ひやくしょう塾(代表:石崎俊男さん)が、道路里親団体としての功績を認められ、茨城県知事賞を受賞しました。道路里親制度は、茨城県管理の道路を里子に見立てて里親を募り、里親になったボランティア団体と道路管理者、地元市町村がお互いに協力して、道路の美化活動を行う制度。2団体は平成16年12月に道路里親団体の認定を受け、歩道の清掃や除草、植栽などを行っています。



笠間市岩間地区日赤奉仕団(左)と土師ひやくしょう塾の皆さん

川嶋志乃舞さん 津軽三味線 コンクールで日本一に

笠間に津軽三味線の達人がいることをご存知ですか? 笑顔がすてきな笠間中学校1年生、川嶋志乃舞さん(石井)は、今年5月に青森市で行われた「津軽三味線日本一決定戦・ジュニアの部」で優勝し、本場青森で見事チャンピオンに輝いた実力の持ち主です。津軽三味線を習い始めたのは3歳のとき。以来、演奏会やコンクールで全国を回るだけでなく、日本の伝統文化を伝える使節としてイタリアやオーストラリアで演奏したこともあるそうです。「一緒に稽古をしている仲間と、いろいろな所に行けるのが楽しい。」と語る川嶋さん。「早く大人に負けない立派な演奏ができるようになりたい。」と目を輝かせていました。



川嶋志乃舞さん(右)と妹の美琴さん

外から見た笠間の魅力 笠間クラインガルテン 利用者が講演会〔9/1〕

9月1日、笠間公民館大ホールで、笠間クラインガルテンの利用者による公開講座「笠間講演会」が開かれました。この講演会は、クラインガルテンで野菜づくりにいそしむ都市住民が、「笠間の皆さんに恩返しをしたい」と自主的に開催したもの。利用者でつくる「笠間を楽しむ会」会員の谷山秀夫さん、小澤博さん、同会代表の亀山吉男さんの3人が、200人を超える来場者を前に、外から見た笠間の魅力や自らの人生経験・知識を生かした提言などを熱く語りました。また、クラインガルテン開園当初からアドバイスをいただいていた東洋大学教授でグリーンツーリズム研究の第一人者である青木辰司さんからも貴重なメッセージをいただきました。



講評を述べる青木教授と3人の講演者(左から小澤さん、谷山さん、亀山さん)

祝・敬老 いつまでもお健やかに

今年、市内の最高齢者は、103歳の高久ウメさん(小原)です。9月4日には、市内の最高齢者と今年度100歳になる12人の皆さんの自宅や施設を山口市長が訪問し、長寿を祝う記念品を贈りました。



また、市内各地で、敬老の日を中心に、和やかな敬老会が開かれました。当日は、それぞれの地区の実行委員の皆さんが中心となって趣向を凝らした様々な催しが行われ、ご高齢の皆さんも楽しいひとときを過ごされました。

市内最高齢の高久ウメさん

祝 笠間市敬老会

—各地の敬老会の様子—



小学生による「小原ひよっとこ」(大原小学校)



地元の皆さんによるフラダンス(福原公民館)



「葵よさこい連」の皆さんによる「よさこいソーラン」(第一東宝ランド公民館)

ま ち の 話 題

朗読劇「この子たちの夏」～ヒロシマ・ナガサキを忘れない～〔8/19〕

8月19日、まゆみ朗読会による朗読劇「この子たちの夏」が、友部公民館大ホールで上演されました。この朗読劇は、第二次世界大戦末期、広島と長崎に投下された原子爆弾によって命を奪われた子どもたちの母親の手記を基に構成したもので、今年3回目の上演となります。舞台では、家屋疎開の作業中に被爆した女学生、建物に押しつぶされ助けを求める子どもたち、全身にやけどを負いながら水を求める人々の様子など、原爆によってもたらされた恐ろしい光景を演者たちが静かに、力強く表現し、決して忘れてはならない戦争の愚かさ、平和の尊さを、約100人の観客に訴えかけました。



平和の尊さを訴えかける演者の皆さん